

「受け入れる」

島根県 ほうせんじ 宝泉寺住職 かまたどうゆう 鎌田道裕

大本山永平寺を開かれた道元禅師様は、同じ事と書く「同事」という教えをお示しです。私たちは一人ひとり、置かれた環境や、価値観、性格など様々な違いがあります。しかし「同事」の教えは、それらを分け隔てることなく「互いに受け入れ合う」ことによって、人々の幸せや平穏を目指します。

少し前のことですが、病院へ通院した際、待ち時間に「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」というポスターが目に残りました。そこには「病気そのものに加え、病気が不安を呼び、その不安が差別を生み、差別を恐れて病院に行かないことで感染がさらに広がる」と記されていました。感染拡大と収束を繰り返す中で、最初の頃に比べればコロナ感染による誹謗中傷や差別は減ってきているように思えます。しかし、新型コロナと言われ始めた当初を思い起こすと、「マスク警察」など感染に伴う誹謗中傷が横行していました。目に見えないウイルスに対する行き場のない怒りが、感染した人に向けてしまったことは非常に悲しいことです。

「同事」という教えは、すべての水を受け入れる海にたとえられます。つまり何もかも拒まない海のように、私たちもまた、他の人の苦しみや、悲しみ、不安を、自分の事のように受け止め寄り添うことが、本来あるべき姿なのではないでしょうか。

私たちには病気を治す力はありませんが、「同事」という「受け入れ合う力」によって、病気からくる不安や差別を少しでも取り除き、病気そのものへの「負の連鎖を」止めることができるのではないのでしょうか私たちが、仏さまとしての行い、「同事」を共にすすめることで、共に思いやり、お互いを傷つけあうことのない世の中の実現に繋がれば幸いです。